

5月11日(月曜日)「エリヤ(3)「神」の違い」

【新改訳 2017】

I 列王記18・16－40

「……『私ひとりが主の預言者として残っている。しかし、バアルの預言者は四百五十人だ。……あなたがたは自分の神の名を呼べ。私は主の名を呼ぼう。そのとき、火をもって答える神、その方が神である。』民はみな答えて『それがよい』と言った。」(22－24節)

この記事も、エリヤのもう1つの有名な話です。よく「カルメル山上の対決」として紹介され、偶像バアルの預言者四百五十人に対し、たった1人で信仰の対決をして勝利した出来事として人気があります。

現代の若い人たちはたぶん、スリル満点、カッコいい話と思うことでしょう。確かにそのとおりでした。しかし、その場は命がけの、ものすごい緊迫した一瞬だったのです。

四百五十人が叫んでも火は下ってきませんでした。しかし、ただひとりで叫んだエリヤの祈りは火を降らせました。どこに違いがあったのでしょうか。信じている対象にありました。偶像と生ける神の違いだったのです。何を信じるかは極めて重大です。

～祈り～

主よ。祈りにこたえられる生ける神は、あなた以外にありません。御名を信じ、ほめたたえます。どうぞ、今日の神の民の祈りにもお答えください。

【学びのために】

カルメル山について:「カルメル」は実り豊かな地の意味。イスラエルの北方、地中海から突き出た岬から、東南へ24キロほど延びている一連の丘。標高は、南東の端で546メートルほど。エリヤとバアルの預言者との対決で有名です。